

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第2区分

【発行日】令和3年8月12日(2021.8.12)

【公開番号】特開2020-8061(P2020-8061A)

【公開日】令和2年1月16日(2020.1.16)

【年通号数】公開・登録公報2020-002

【出願番号】特願2018-128751(P2018-128751)

【国際特許分類】

F 16 F 15/129 (2006.01)

F 16 F 15/123 (2006.01)

F 16 D 13/64 (2006.01)

【F I】

F 16 F 15/129 C

F 16 F 15/123 A

F 16 F 15/123 B

F 16 D 13/64 G

【手続補正書】

【提出日】令和3年6月21日(2021.6.21)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項8】

前記緩衝部材は、前記第1摩擦部材よりも大きい摩擦係数を有する、請求項1から7のいずれかに記載のダンパ装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0021】

(8) 好ましくは、緩衝部材は、第1摩擦部材よりも大きい摩擦係数を有する。この場合は、第1摩擦部材が緩衝部材に当接すると、緩衝部材の表面に対してすべりにくくなる。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0093

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0093】

以上から、捩り特性の1段目では、{入力側回転体20+ハブフランジ21+サブプレート34+スプリングホルダ35}が一体回転し、これらの部材に対して{ドライブプレート36+スラインハブ4}が回転する。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0094

【補正方法】変更

**【補正の内容】****【0094】**

この場合は、L-Hヒス発生機構13によるヒステリシストルクHと、Lヒス発生機構14によるヒステリシストルクhLとが発生する。具体的には、第1摩擦ワッシャ51とクラッチプレート24又はスラインハブ4との間、及び第2摩擦ワッシャ52とスラインハブ4との間、において摩擦抵抗が発生する。また、同時に、波線56とサブプレート34との間、及びドライブプレート36とスプリングホールダ35との間においても摩擦抵抗が発生する。

**【手続補正5】****【補正対象書類名】明細書****【補正対象項目名】0107****【補正方法】変更****【補正の内容】****【0107】**

また、第1摩擦材61は第1摩擦ワッシャ51より低い弾性を有するので、第1摩擦ワッシャ51が第1摩擦材61の緩衝部61bに当接しても、第1摩擦ワッシャ51が損傷するのを避けることができる。さらに、緩衝部61bは第1摩擦ワッシャ51よりも大きい摩擦係数を有しているので、第1摩擦ワッシャ51が緩衝部61bに当接しても、第1摩擦ワッシャ51がすべりにくく、第1摩擦ワッシャ51の姿勢が変動するのを抑えることができる。

**【手続補正6】****【補正対象書類名】図面****【補正対象項目名】図7****【補正方法】変更****【補正の内容】**

〔 四 7 〕

